

授業科目名[英語名]

アジアの日本語教育[Teaching Japanese Language in Asia]

担当教員名[連絡先(TEL,研究室など)]

小林基起[099-285-3621]

E-Mail	kobamoto@ms.kagoshima-u.ac.jp	受講対象	全				
課程区分	共通教育	学科/科目・分野等	教養 1分野	開講期	後期	単位等	2

共同担当教員名

教育目標のキーワード

視野・判断力・探求能力/コミュニケーション能力と相互理解

学習目標(学生の達成 目標)

アジア・中南米・大洋州・東欧・中東・アフリカをはじめ世界各地の日本語教育の歴史と現状を先ず概観する。それぞれの国や地域の特色を知り、その地にあった日本語教育がどう工夫されてきたかを、現場の事例を中心に理解する。海外日本語教育の現状は多種多様であり、日本語教師への要求も一様ではない。各国の実情と問題点を理解し、必要なものを推測でき、その対策が立てられる力が求められている。現場の要求が何であるかが見えるようにするトレーニングを目指す。これは日本語教師志望者に限らず、政治や経済、異文化理解や国際交流を学び、目指すものにも必須である。

授業概要(目的・内容・方法)

アジアだけでも中国・モンゴル・ベトナム・ラオス・カンボジア・フィリピン・ウズベキスタン・キルギス・インドをはじめ、個別の説明と理解が欠かせない国がある。中南米・東欧・大洋州・中東・アフリカなども、多様性の型を説明するだけでも容易ではない。そこで、実際に各国の日本語教育などの現場を青年海外協力隊の巡回指導や評価等で訪問し、現在も継続的に調査・研究・注視を続けるなかで、最低限理解しておくべきことに絞って説明する。それには多様な国や地域の歴史と文化の現状を学ぶことが前提となる。各々の国や地域の歴史と文化のなかで生きている日本語教育とは何であり、どうせねばならないのかを事例とともに紹介し、その意味と問題点とを整理する。それはアジアをはじめ世界における、日本の役割とすべき道とを考えることになる。多様な文化が共存し、平和で豊かな世界にするための理念と方法を考えることにもなる。海外の日本語教育の現場の経験から学ぶべきことを掴んでほしい。みずみずしい感性に期待する。この科目は、将来開設が囑望されている日本語教師養成コースの科目の一つだが、日本語教師志望者のみでなく、広く世界に目を向ける人を対象とする。なお、後期設置の「アジアの日本語教育」科目は、本科目の各論としての位置づけを予定している。

授業計画(15回に分けて、回数、日付、授業内容、授業外活動など)

- 第一回 ガイダンス
 第二回 中国
 第三回 ベトナム・ラオス・カンボジア
- 第四回 フィリピン・タイ・インドネシア・東南アジア
 第五回 ウズベキスタン・キルギス・中央アジア
 第六回 インド・アジア諸国・大洋州
 第七回 ルーマニア・東ヨーロッパ
 第八回 中南米
 第九回 中東諸国・アフリカ
 第十回 その他の国々
 第十一回 海外日本語教育とは
 第十二回 校種(高等教育・中等教育・日本語学校・その他)
- 第十三回 日本語教師論
 第十四回 発表
 第一五回 まとめ

(なお授業計画は進捗状況によって変更の可能性もある)

受講要件	特になし 留学生の受講を歓迎する		
評価基準および方法	ミニレポート(30%)、発表(30%)、最終レポート(40%)		
教科書	指示する	参考書	適宜紹介
授業時間外対応(オフィスアワー、授業後、学習シートなど)	随時	その他	なし